

ドクガ（別名 ナミドクガ）

春に草や低木の葉を集団で食害するケムシ（幼虫）。最大長約40mm。体は黒く、オレンジ色の縦縞や斑紋がある。海岸近くなど開けた場所でしばしば多発する。食害により樹木が衰弱したり枯れた例は知られていない。毒毛を持ち、触ると皮膚炎を起こす。



1. 老齡幼虫，体長25mm。1999/6/14。
美唄市，庭のタカネナナカマド。

【学名】 *Euproctis subflava*

【分類】 チョウ目（Lepidoptera），ドクガ科（Lymantriidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州；シベリア南東部，朝鮮半島，中国。

【特徴】

体長1cm以上で体の色が黒とオレンジだけのケムシは他にいないので識別は容易。

【生態】

小さな幼虫のとき集団で越冬する。早春，各種樹木の葉を食べて成長する。6月に繭を作り蛹になる。成虫は夏に出現し，照明に集まる。雌成虫は卵をまとめてうみ，毛で覆う。孵化した幼虫は秋に葉を食べてから晩秋に越冬に入る。

【防除】

海岸林で多発することがあるが，木を枯らすことはほとんどないので防除は普通必要とされない。

庭などでもよくみられる。樹木害虫というより，衛生害虫である。農薬としては，庭木ではケムシ類用のレスメトリンのエアゾル（スプレー），一般樹木（林木）ではドクガ類用のMEP乳剤などがある。農薬は取り扱い説明書にしたがって使用し，通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

ドクガ dokuga/dokuga/

kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/17.

yochu.jpg

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1999.